

第3章 住宅政策の基本理念と重視する視点

1 基本理念

基本理念

『愛^え顔あふれる住まい・まち・暮らし』

人口減少や少子高齢化等が進展する愛媛県の状況に対して、高齢者の住まいの確保や、若年層の定住促進、生産年齢人口が定着しやすい働き方と住まい方、空き家対策など、住宅政策としての施策展開を進めることで、愛媛県全体の持続可能な社会づくりを後押しすることが求められます。

愛媛県は松山市を中心に四国地方の経済・文化の拠点として高いポテンシャルを有するとともに、豊かな自然や森林環境、農山漁村、歴史的な町並みなど、居住地、観光地、就業の地として大きな魅力のある県土を有しています。魅力ある県土は県民が豊かな住生活を実現するための資源となっています。

このような中、新型コロナウイルスの感染拡大等をきっかけとして、リモートワークの普及やそれを背景とした居住地選択の自由度や、自分らしい暮らし方の実現に対する意識が高まるなど、大きく社会環境が変化してきています。愛媛県でも、以前から取り組んでいる県外からの移住促進においてリモートワークによる就業や起業等を想定したコワーキングスペース等の整備や情報発信に取り組んでおり、関東圏などからの移住者の増加がみられます。

また、2030年までに国際社会共通の目標として設定されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、愛媛県においても、多様な県民すべてが、孤立したり排除されないよう、社会の構成員として包みこみ、支えあえる「インクルーシブ（包摂的）な社会」を構築することが求められています。高齢化がさらに進展する社会の中で、高齢者が安全・安心に暮らすことのできる居住環境をより一層確保する必要があるとともに、障がい者や外国人、LGBT、子育て世帯など、多様な県民一人ひとりが豊かに暮らすことのできる居住環境や住宅市場を構築することが必要です。

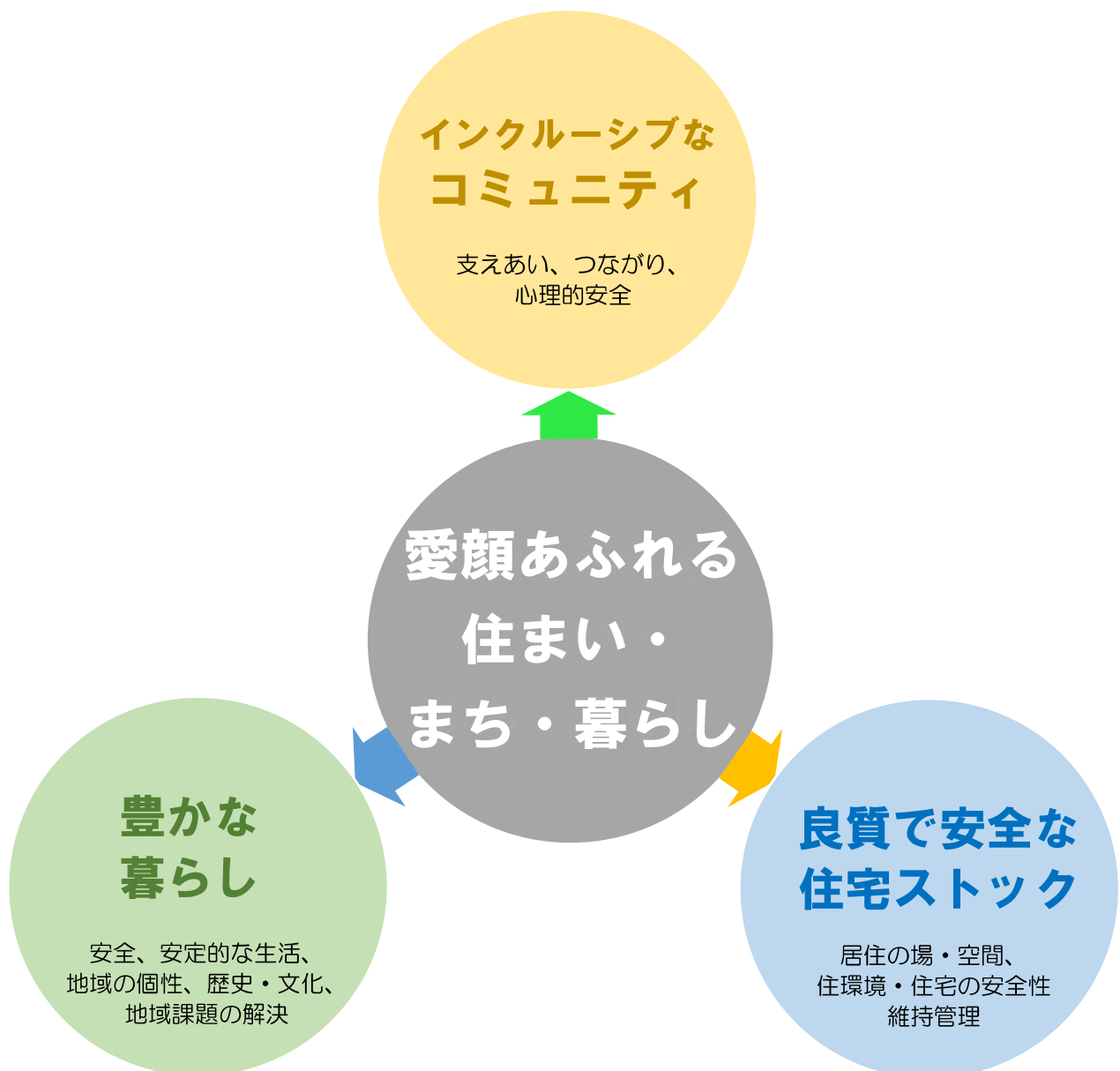
インクルーシブな社会を構築し、すべての県民が豊かに暮らすためには、「住まい」を確保するだけでなく、生活の安定を図るための様々なサービスの提供が必要であるとともに、県民相互の見守りや支え合いなどが可能な、安心して暮らすことのできるコミュニティが醸成されていることも重要です。特に、今後人口減少が進む中において、社会的な制度やサービスだけでは医療や介護、防災などの安全・安心を支えることが困難になることから、豊かなコミュニティの中で支え合いながら愛顔（えがお）で暮らすことのできる居住環境を形成することは、持続的な社会を構築するために不可欠だと考えます。

愛媛県の住宅政策は誰もが愛顔（えがお）で暮らすことのできる住まいとまちを実現するために、本県が有する自然環境、産業、住文化、これまでに整備された公共施設や住宅などの社会資本ストック等を活かし、県民、企業、行政の様々な主体がともに手を携えて、よりよい住まい・よりよいまちを創り上げ、県民の幸福な暮らしを支える社会環境を整えることを目指します。

2 本計画の推進において重視すべき視点

基本理念の「愛顔(えがお)あふれる住まい・まち・暮らし」を実現するためには、良質な住環境の中で、一人ひとりの個性や、地域の歴史文化を生かしながら健康で豊かな暮らしを送ることができるとともに、多様な人同士のつながりや支えあいの中で暮らすことのできる住まいやまち、コミュニティが必要であると考えます。

そのため、本計画では基本理念の実現に向けて、「インクルーシブなコミュニティ」「豊かな暮らし」「良質で安全な住宅ストック」を形成することを重視して、基本目標と施策展開を定めます。



インクルーシブなコミュニティとは・・・

インクルーシブとは、日本語で言うと「包摂的」という意味です。社会の中で誰一人取り残されずに、すべての人が、心身ともに安全で豊かな暮らしを送ることができる包摂的な社会をつくるためには、家族の形・国籍・障がいの有無など、多様な県民が居住するそれぞれの地域において、支えあい、認め合い、尊重しあえるコミュニティが必要だと考えます。

視点1 インクルーシブ（包摂的）なコミュニティを育む

- ・高齢者や障がい者、子育て世帯や単身世帯など、多様な県民が暮らす各地域において、誰一人取り残されずに適切な住宅を確保することを前提として、お互いに支え合い、触れ合える豊かなコミュニティの中で暮らしを送ることのできる社会を目指します。
- ・少子高齢化が進む中で地域コミュニティ活動が低下し、地域活力の衰退が懸念される地域において、自分らしい暮らし方の実現などを想定した都市部からの移住者を含む新たなコミュニティを形成し、従来からの地域コミュニティと相互交流を深め融和することは、持続的な地域の発展のために必要な視点です。

視点2 県民の豊かな暮らしの実現を支援する

- ・すべての県民が豊かな暮らしを実現するためには、安全な住環境で安心して生活を送ることができる社会とすることが必要です。そのため、災害を未然に防ぐための取り組みや、発生した災害からの復興などに配慮するとともに、誰もが安心できる適切な住宅の確保や生活基盤の確保ができるセーフティネットの仕組み等が必要です。
- ・また、愛媛県には、豊かな歴史や住文化、美しい海や田園風景、自然環境に恵まれた個性的な地域があります。このように愛媛県らしい環境を楽しみ居住する「豊かな暮らし」の実現に向けた取り組みを支援します。

視点3 良質で安全な住宅ストックを形成し適切に維持管理する

- ・愛媛県では、住宅ストックが量的に充足し、空き家も増加してきている状況の中で、カーボンニュートラルを目指す視点も含め、「良質な住宅」の供給を促進し、きちんと手入れをして長く大切に使う社会を目指します。
- ・長く使い続けられる住宅ストックを形成するためには、長持ちする材料や工法の建物とするだけでなく、高齢者も住みやすいバリアフリー対応や、カーボンニュートラルを目指した環境にやさしい省エネ住宅とすることで、長期間住み続けることのできる住まいとすることも重要です。また、住宅ストックの適正な維持管理を推進するための仕組みづくりの推進と、県民や事業者等における良質な住宅ストックの形成と維持管理に関する機運醸成を図ります。
- ・増加傾向が継続する空き家への対応としては、危険な空き家の除却処分等を進めるだけでなく、活用可能な空き家について、まちづくりの資源として活用促進を図ります。